

## 「あなたの重荷は軽い」

マタイによる福音書 第11章 28節～30節

説教 本庄侑子伝道師

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(28節)そう呼びかける声に導かれて、私たちは今朝、同じ船に乗り込みました。この船の中は、人生の重荷による叫びが渦巻いています。私たちは、重荷が肩に食い込み擦り切れてくるとき、様々な方法でストレスを発散させます。しかしそれらは、あくまでも応急処置です。〈荷が重い〉という本当の問題は解決されません。

「休ませてあげよう。」(28節)私たちが乗り合わせた船の船長である、イエス様の言葉です。しかし、いざ船に乗ってみると、続きの言葉があることを知らされます。「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(29節、30節)「あなたがたは安らぎを得られる。」を直訳すると、「あなたがたの命は休みを見つける。」です。イエス様によれば、私たちの命は休みを探しています。その休みは、重荷を下ろして、ただほっとすることではないようです。

「わたしのくひきの「軛」は、牛などの家畜の首にかける木のことで、荷台につなぎ、荷物を運ばせる時に使います。また時に、二頭の牛が横並びで、同じ軛につながれて一緒に荷物を運びます。イエス様は断言されます。あなたの重荷は、私と同じ軛に繋がれて歩む時、負いやすく軽くなる。あなたの命は休みを見つける。

イエス様はその理由を、「私は柔和で謙遜な者だから」と説明されました。イエス様の柔和さ。それは力を捨てることにあります。神様の正しさは、私たちの力で守り、主張するものではないからです。イエス様は、確かに柔和な方でした。十字架につけられる日が迫る時、強い軍馬ではなく、ひ弱なロバに乗って現れました。人々を力で打ち負かすことができたにも関わらず、十字架に至るまで力を捨てられました。柔和さによって、あらゆる力に打ち勝つ道を開いて下さいました。

イエス様はまた、謙遜な方でした。イエス様が言われる謙遜は、遠慮深いということではありません。神様に従順であるということです。他の箇所では「へりくだり」とも訳されます。神様に対してへりくだる。頭を下げるのです。

人と関わる時、その人自身ではなく、その人を愛しておられる神様に対してへりくだり、頭を下げ、従順でいること。それがイエス様の謙遜です。

イエス様は「仕えられるためではなく仕えるために」、「多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た」(マタイによる福音書 20章 28節)と宣言し、十字架への道を自らの意志で歩まれました。私たちが重荷によって負う苦しみを、その身に引き受けて死なれました。私たちが新しい命に生かすために、ご自身を使い果たし、その後、甦って、苦しみをもたらす力を滅ぼされました。私たちの命は、このイエス様の命に結び合わされるとき、本当の休みを見つけます。洗礼を受け、死と復活を通られたイエス様の命につながれて、今もなお、この地上で人々に仕え、捧げ尽くしておられるイエス様に用いていただくこと。それが、私たちの命の休息です。

イエス様は、今朝、同じ船に乗り合わせた全ての者に、やってみなさい、とおっしゃいます。無理やり重荷を負わされ、奴隷のように生きていると思っていた私たちは、この船で、イエス様の手から重荷を受け取り直し、イエス様と同じ軛で負い直します。その重荷は、柔和で謙遜なイエス様がそれぞれに用意して下さい、永遠の価値を持つ命の使い道です。

この重荷さえなければ、どんなに身軽に生きられるだろう。私たちは、人生の途上で何度もそう思います。しかし、重荷を身軽に負って、安らぐ命がここにありません。今や荷の重さは、苦しみではなく、より一層、その場所を踏みしめる力を与えます。力づくでやりこめたくるときに、神様に信頼して柔和でいる力。死に至るまで、神様に謙遜でいる力。人々に仕え、命を与え尽くすイエス様の愛の力を与えます。

私たちが乗り合わせた船は、船長であるイエス様の命に結び合わされて、人々を愛し抜く航路を着実に進んでいます。神様に信頼して、人を愛し、人に仕えるための命が燃やされて進む、安らかな命の船です。イエス様は招いておられます。「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」

(記 本庄侑子)